

〔優秀賞〕

◇ 仕事について考えたこと ◇

佐野小学校 5年 堀江 陽葵

「すごいなあ。」

静岡県熱海市の土砂災害のニュースを見ていた時のことです。現場できゅう助にあたっている人たちの中に女性がいました。全身どろでよごれて働いている男性の人たちとっしょに、その人も必死に動き回っていました。そこで、わたしは身の回りで働く人たちのことを考えてみました。保育園で子どもたちの世話をしている保育士には女性が多いです。実際にインターネットで「保育士」を調べると、女性の保育士のイラストや画像が多く見られます。しかし、わたしが通っていた保育園には男性の保育士もいました。男性の保育士も子どもたちとっしょに遊んだり勉強を教えたりしていました。エプロンをした保育士もいました。また、3年生の時には社会科見学で行った消防しょで働いている人たちのことも思い出しました。男性の消防士は100人以上いました。一方、女性の消防士は、5人くらいの印象でした。

このように、職場によって男性と女性の働く人のわり合は大きくちがっています。わたしは子どもの世話になれているからとかや体力が必要だからとかによりこのようなちがいがあるのだと考えました。そうした中でも保育士や消防士になりたい人は性別にかかわらず働いているのだと思います。

さらにわたしは父と母に職場のことを聞いてみました。父がつとめている市役所では男性と女性はほぼ同じくらい働いています。また、役職に女性を積極的に登用しています。

女性が子どもを産むために長い間休んでも職場にもどりやすいようになっています。男性が、子どもの面どうをみるための休みを取りやすくする取り組みもあるそうです。

「仕事を続けたい女性には働きやすい場所だよ。」

と父が言っていました。

母は、わたしをふくめて子どもが3人いますが、仕事を続けています。昔は仕事をしたくても、女性というだけで男性より会社に入ることがおずかしかったと教えてくれました。また、せっかく会社に入っても出産するためにやめる人がほとんどだったそうです。母が「昔のままだったら、仕事を続けるのはおずかしかったかな。」と言っていました。

仕事の内容によって男性が働きやすい職場、女性が働きやすい職場は必ずあると思います。その中でも性別にかかわらずがんばって仕事をしている人がいます。しょう来わたしには、いろいろな仕事につくことができる可能性があります。これも今までの人たちが、性別にかかわらず働くことができるかんきょうを作ってくれたおかげです。わたしも大人になり社会の一員になったら、みんなが自分の働きたい仕事について、それが続けられるように周りに働きかけたいと思います。